

密嚴院發露懺悔文

われらさんげ、意始より此の方、妄想に纏はされて衆罪を造る。身口意業常に顛倒して、誤つて無量の不善の業を犯す。珍財を慳悋して施を行せず、意に任せて放逸にして戒を持せず。屢忿恚を起して忍辱ならず、多く懈怠を生じて精進ならず。心意散亂して坐禪せず、實相に違背して慧を修せず。恆に斯くの如きの六度の行を退して、還つて流轉三途の業を作る。名を比丘に假つて伽藍を穢し、形を沙門に比して信施を受く。受くるところの戒品は忘れて持せず、學すべき律儀は廢して好むことなし。諸佛の惡厭したまふところを慙ぢず、菩薩の苦惱するところを畏れず、遊戯笑語して徒らに年を送り、諂誑詐偽して空しく日を過ぐ。善友に随はずして癡人に親しみ、善根を勤めずして惡行を營む。利養を得んと欲して自徳を讚し、勝徳の者を見ては嫉妬を懷き、卑賤の人を見ては僞慢を生じ、富饒の所を聞いては悋望を起し、貧乏の類を聞いては常に厭離す。故らに殺し誤つて殺す有情の命、顯に取り密かに取る他人の財、觸れても觸れずしても犯す非梵行。口四意三互に相續し、佛を觀念する時は攀縁を發し、經を讀誦する時は文句を錯る。若し善根を爲せば有相に住し、還つて輪廻生死の因となる。行住坐臥知ると知らざると、犯すところの斯くの如きの無量の罪、今三寶に對して皆發露し獻る、慈悲哀愍して消除せしめ給へ。皆悉く發露し儘く懺悔し乃至法界の諸々の衆生、三業所作の斯くの如きの罪、我皆相代つて儘く懺悔し獻る。更に又其の報を受けしめ給はざれ。